

名古屋観光ビジネスのデザイン提案/第2回勉強会 なごやサーベイ (Dコース) 報告

作成：伊奈史朗

実施日時；2015年9月5日(土) 7:31~16:00

調査箇所；Dコース/セントレア→盛田味の館→食事処うさぎ→國盛酒の文化館→赤煉瓦

メンバー：岩佐泰樹、林峯、伊奈史朗

以下、3名の調査・感想をまとめて報告。各(岩佐)(林)無印：伊奈

■事前調査

- ・ホームページで見処を調べようと思いついたが“知多”の地名を知らないのでは？
- ・H.P：半田を検索、半田市観光協会のH.Pは見処・食事処の案内は充実。英文表記なし。
- ・H.P：國盛酒の文化館を見学する場合、予約が必要だが文字小さく日本語のみ表記。

■調査

[電車名鉄名古屋駅→中部空港行]

- ・名古屋駅：行先電光表示板表示の文字(白)が見えづらい。ベース色：黄色。英語表記なし。
- ・同上：ホームアナウンス、日本語のみ。
- ・車内：車内自動アナウンスは日本語と英語。
- ・同上：特急一般車に乗車。通勤者と大型旅行鞆を持った旅行者が入り交じりケースをあちこち移動させ置き場所に困った様子。通勤者が降りた後は乗降口付近に。
* 1車両の半分(視野に入る範囲)に9名の大型ケースを持つ旅行者か出張者
- ・同上：路線図(紙製)は日本語のみで文字が小さい。電光表示板は停車駅名と次の停車駅名を日・英語表示のみ。Vs 関東圏私鉄は行先までの駅名を表示しわかり易い。
- ・同上：終点手前でムード音楽が流れる。伊勢湾が見えはじめ出掛けるのだなと気分に。
- ・同上：常滑付近に差し掛かった時、車窓からの眺めで黒壁の家が見えたのはポイントか。
- ・空港駅：表示は日本・英語表記



[空港内]

- ・路面に案内があるが誰も見ていない。上に気を取られ目に入らない様子。(林)
- ・黒字に白のサインは、少し見にくい(カッコはいいが)又、文字が小さい。(林)
- ・アクセスプラザ(ちゃんと見れていないが)
観光案内の情報が少ない。案内が名鉄に偏っている感じ。(林)

〔国際線到着ロビー〕

- ・ 中部国際空港の利用客の大半は出張者か東海地方在住の外国人を頼ってくる外国人で観光目的の外国人らしき人は少ない印象を受けた。

〔名鉄中部国際空港駅・車中〕

- ・ 券売機：外国人には、切符の買い方は解りづらい。
- ・ アクセス方法：最初の観光地「盛田-味の館」は、空港前からの知多バスはあるが、15:00 発他 2 本しかない。一旦電車で常滑駅まで行き、知多バスに乗り換える。
- ・ 車両の荷物スペースに考慮なし。(林)



〔名鉄常滑駅〕

- ・ 改札を出て「観光案内所」や「バス乗り場」案内サインが見当たらない。(林、伊奈)
- ・ 観光案内所で確認。聞かないと教えてくれないが、路線案内はあり。
- ・ 1 日乗車券の案内がわかりにくいし、利用についての説明ももっと必要。(林)
観光案内所で「常滑市内一日乗車券」を購入。
- ・ 需要によるが周遊バスでもあればよいのだが。(林)
- ・ バス停：案内看板なし。(林、伊奈)



〔観光1 盛田-味の館〕

- ・ バス停：バス停付近に道順案内表示が無い。
- ・ バス停から距離があるので、施設までの道のりに魅力を (林)
(もっと点在する施設の説明等)
- ・ 途中：同様に途中、人に尋ねながら向かう。
- ・ 味の館：・ 盛田昭雄氏常設展示室とお土産販売・食事処の構成から成っている。
 - ・ 工場見学は事前予約が必要。(約 20 分)
 - ・ 盛田昭雄展示室は、SONYを知る外国人は関心が高いと思う。
 - ・ 一日乗車券を提示すると、盛田八丁味噌パックが貰えた。
 - ・ お酒の試飲コーナーで味わうこともできる。
 - ・ 盛田氏の展示は良くもっと外部にアピールすべき (林)

- ・反面、本来の味の館の内容（みそ、しょうゆ、酒）がものたりない。（林）
※工場見学ができなかったこともあるが館にポイント展示等あればよい。
- ・駅から施設までバスでも少し遠くわざわざバスに乗っていく魅力づくりも必要（林）
- ・路線バス：先ほどのバス路線に戻り、その先の上野間駅まで乗車。
 - ・上野間は常滑市外になり、乗車券の差額を支払う。がトータル安く済む。



[名鉄上野間駅→知多半田駅]

- ・上野間駅：券売機は他駅同様に英語表記無し。
- ・知多半田駅：
 - ・駅前を整備されており、街中のサインも充実（英語のみ）（林）
 - ・駅構内の周辺案内表示は不足。（林）
 - ・街中の説明表示は日本語のみ。これからはQRコードのスマホ読み取りか⇒各言語で説明。（林）
- ・タクシー乗り場あり。レンタカー店は周辺になさそう。
- ・市街地：道路の所々に観光地ルート表示あり。



〔昼食&散策〕

- ・うさぎ屋：和食・会席料理
 - ・事前に HP で検索済み。但 HP は英語表記なし。
 - ・元酒造所の自宅(古民家)を現オーナーが購入し料理店を開く。



- ・煎餅屋：紺屋海道と言う旧街道沿いとうさぎ屋とこの煎餅屋がある。明治の建物で昔は米市商店という米屋さん。れんが焼きという大判醤油煎餅が面白い！



〔観光2 國盛-酒の文化館〕

- ・見学する場合、事前に予約電話が必要。HP に表記されているが日本語のみ。
- ・30 分間隔で案内人(熟練した女性)が約 30 分程度で館内を説明とビデオ上映。
- ・最後のコーナーではここで製造されるお酒の試飲ができる。この日は絞り立てのあらばしりが振る舞われた。勿論宣伝！





〔観光3 散策～半田赤レンガ建物〕

- ・紺屋海道：酒の文化館近くから海道につながり、歩いていくと先ほどのうさぎ屋・煎餅屋と続き、更に進むと半田赤レンガ建物の前に到着する。
- ・赤レンガ建物：明治にカプトビール製造工場として誕生。耐震補強工事を終え今年の7月オープン。設計は妻木頼黄氏。国の登録有形文化財に登録、近代化産業遺産に認定された。
- ・ここ専用貸し自転車が用意されている。がここに返却しなければならない。





〔JR半田駅→JR名古屋駅〕

- ・半田駅：こ線橋はJRでは最古の橋。
- ・名古屋駅：英語表記は路線図のみ。券売機は日本語。



■感想

- ・外国人観光客の多くは、名古屋を観光目的に思い浮かべないだろう。そこで、
 - ①コンテンツ創り：現状の観光名所はワンパターン！先ずはどんな所があるか“掘りあげる”所から。そして点でしかない所を線で結び、魅力ある新たな観光ルートをつくる。
 - ②いかに“コンテンツを発信”するか：
 - 来日する前にインターネットで調べる＝アップの仕方が鍵。
 - 例えば、JIDAのH.P⇒“モノづくり”題して紹介するとか。(以上、岩佐氏)
- ・「知多」観光ツアー“知多 日本食と酒を味わう旅”
 - 常滑市内に1箇所観る所を加えて上記のストーリーをつくる。
 - ①常滑焼「盃」「徳利」購入⇒②味の館「工場見学+酒の試飲味噌つまみ+盛田昭雄のルーツ」⇒③ミツカン酢ミュージアム or 國盛酒の文化館「歴史見学」
- ・今回立ち寄った煎餅屋等散策中の見所/寄り処もストーリーに組み込めば良い。(林)
 - (酒づくりの余り⇒せんべいに) ※実際どうかの確認は必要。
- ・街中巡回の利便性。乗り捨てレンタサイクル、巡回バス。(林)

- ・ 国盛の 30 分での見学は時間的にも良いですね。試飲も楽しく。(林)
(海外旅行者向けのしかけをすれば良いでしょう。)
- ・ 酢の里がオープンしたらもう一度行きたいですね。(林)
- ・ 今回のサーベイを行なって“現地現物”の大切さをあらためて実感した。目にする度ごと
色んな発見があった。同時にアイデアも浮かんできた。
- ・ サーベイは継続しておこなう必要を感じた。
①深堀(もっと魅力を出すため) ②新しい観光源の発見(未だ不足)
- ・ 2 回のサーベイ終了後のディスカッションは少グループ(サーベイ?)每で行なう(案)。